

# 1 令和4年度(2022年度)以降の養殖事業の取り組み

令和3年度第1回協議会でご報告したとおり、本市では、魚類の養殖を実現するため、令和3年度からキングサーモンの完全養殖技術研究に着手し、着実に研究を進めております。

研究内容につきましては、8月に整備を完了した水槽や上屋などの試験施設において、キングサーモンの人工魚と天然魚を飼育しながら、生育に関する知見を深め、精子等の遺伝資源の保存やDNA解析のほか、採卵・人工受精、孵化試験などに取り組んでおります。

また、海況基礎調査では、市内4海域に潮流計を設置し、流向・流速・海水温などのデータを収集しており、今後、これらの調査結果に加え、海面の区画の状況、管理に必要な体制などを勘案しながら、本年度中には、海面養殖試験を実施する海域を選定したいと考えております。

今後につきましては、完全養殖技術研究のベースとなる試験飼育を継続しながら、人工受精や孵化など種苗生産技術の研究に取り組むほか、高品質なサーモンの養殖と経営コストの抑制を両立できる飼料の開発や安定した養殖経営を維持するための魚病対策などの事業化研究についても実施に向けた検討を進めてまいります。

海面養殖では、市が選定する海域に浮沈式生け簀を設置し、高波や波浪などに対する施設の耐久性を確認したうえで、魚類の飼育試験に取り組んでまいります。

また、本市の基幹漁業で母藻の確保など喫緊の課題を抱えるコンブ養殖については、気候変動に適用する養殖システムの開発により、持続可能な漁業とするコンブの完全養殖技術研究に取り組んでいきます。

各種研究の取り組みにつきましては、市内漁業協同組合をはじめ、北海道大学大学院水産科学研究院や函館国際水産・海洋都市推進機構、市内の学術研究機関などと連携しながら進めてまいります。